

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M314M204	臨床病理学 I (Clinical Pathology I)	専門科目 コース共通専門分野

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	前期	金・2	内田 智久、泥谷 直樹、塚本 善之 内線：5693 E-mail：tomohisa@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

病理学は、病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする。疾患の理解には組織、分子レベルでどのような変化が生じているかを理解することが重要である。病理学総論においては、疾患を理解するうえで共通となる概念について学修する。病理学各論においては、総論の理解を踏まえ、各臓器における具体的な疾患を学び、それぞれの病態を理解する。さらに症例検討の中で病理学総論・病理学各論で学んだ知識を応用して病態生理を組み立て、疾患をその基盤となる組織・細胞・分子レベルで説明できるようになる。

具体的な到達目標	ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 疾患を理解する上で共通となる病理学的概念について説明できる	○					
2. 各臓器の具体的な疾患からそれぞれの病態を説明できる	○					
3. 症状や病理学的所見から病態生理を組み立てることができる		○				
4.						

【授業の内容】

1	病理学 インTRODクシヨN (内田 智久)
2	病理学総論 細胞障害、細胞死と適応 (泥谷 直樹)
3	病理学総論 急性および慢性炎症 (塚本 善之)
4	病理学総論 組織の修復：再生、治癒、線維化 (塚本 善之)
5	病理学総論 循環障害 (泥谷 直樹)
6	病理学総論 感染症 (泥谷 直樹)
7	病理学総論 免疫系疾患 (泥谷 直樹)
8	病理学総論 腫瘍 (塚本 善之)
9	病理学総論 遺伝性疾患および小児の疾患 (内田 智久)
10	病理学各論 口腔・消化器1 (内田 智久)
11	病理学各論 口腔・消化器2 (内田 智久)
12	病理学各論 肝臓・胆嚢・胆管 (内田 智久)
13	病理学各論 膵臓 (泥谷 直樹)
14	症例から病態を学ぶ (病理組織診断と細胞診断) (内田 智久)
15	症例から病態を学ぶ (疾患と病理診断) (内田 智久)

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認		症例問題をグループごとに担当して、その病態生理について発表・討論会を行う。
B：意見の表現・交換	○	
C：応用志向	○	
D：知識の活用・創造		

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	配付資料や参考文献等の情報が必要に応じて予習する (25h)。
事後学修	授業で学習を活かし、理解を深める (35h)。

【教科書】

教科書は指定しない

【参考書】

ロビンス基礎病理学 10 版 Vinay Kumar (著), Abul K. Abbas (著), Jon C.Aster (著), 豊國 伸哉 (監修, 翻訳)、丸善出版、2018 年

Robbins and Cotran Review of Pathology, 5th edition Edward C. Klatt MD (著), Vinay Kumar MBBS MD FRCPath (著)、Saunders、2022 年

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4
期末試験	90%	○	○		
症例検討発表会	10%	○	○		

【注意事項】**【備考】**

教員の実務経験の有無	○	医師
教員の実務経験		
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容		臨床の現場で必要となる知識を習得させる。
授業形態		対面